

本資料は、「教科書発行者行動規範」に則っており、
配布を許可されているものです。

2020年度用

小学校5・6年生英語教科書

内容解説 資料

教授用資料

Junior Sunshine



別冊②

KAIRYUDO

▶ カリキュラム・マネジメント

—小学校外国語科における短時間学習の活かし方—

上原明子（都留文科大学）

1. カリキュラム・マネジメントの考え方

小学校学習指導要領（平成29年3月告示）（以下、新学習指導要領）第1章第1の4では、カリキュラム・マネジメントの定義が以下のように示されています。

各学校においては、児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと（以下「カリキュラム・マネジメント」という。）に努めるものとする（p.18）。

つまり、カリキュラム・マネジメントとは、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこととされ、次の3つの側面から成るものです。

- (1) 児童や学校、地域の実態を適切に把握し、教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと
- (2) 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと
- (3) 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

新学習指導要領では、知・徳・体にわたる「生きる力」を育むため、全ての教科等の目標および内容を、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱で整理しています。この3つの資質・能力は、個々の教科及び領域内だけでなく全教育課程で組織的・計画的に育んでいく必要があります。そのために学校内の教員が連携して教育活動の質の向上を図っていかねばならないのです。カリキュラム・マネジメントは、管理職を中心として全職員で取り組む校内の体制づくりを進めたり、さらには教育委員会など行政機関が主導して体制整備を進めたりするなど、連携して取り組んでいくことが重要です。

また、第1章第2の3(2)では、ウの(イ)に以下の記述がされています。

各教科等の特質に応じ、10分から15分程度の短い時間を活用して特定の教科等の指導を行う場合において、教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用等を責任を持って行う体制が整備されているときは、その時間を当該教科等の年間授業時数に含めることができること（p.20）。

10分から15分程度の短時間学習を設定する場合、教師が、単元や題材など内容や時間のまとまりを見通した中で、その指導内容の決定や指導の成果の把握と活用などを責任を持って行う体制が整備されていなければならないことが書かれています。これについて新学習指導要領の解説 総則編には、当該教科や学習活動の特質に照らし妥当かどうかの教育的な配慮に基づいた判断が必要である、と書かれています。特に、外国語学習の特質を踏まえ、短時間の授業を行う際は、まとまりのある授業時間を確保した上で、両者の関連性を明確にする必要があるとされています。

また、年間35単位時間、週当たり1単位時間の外国語活動を短時間で実施することは、上記のようなまとまりのある時間を確保する観点から困難だともされています。

2. 小学校外国語科における短時間学習（モジュール授業）の活かし方

これまで確認しましたとおり、カリキュラム・マネジメントは、外国語活動および外国語が導入されたことによる年間35時間の授業増をどう週時程に収めるのかという単なる時数の問題ではありません。教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくことなのです。

ここでは、小学校外国語科における短時間学習（モジュール授業）の活かし方を確認します。新学習指導要領の第2章第10節 外国語 第2の3(1)のエには以下の記述があります。

児童が英語に多く触れることが期待される英語学習の特質を踏まえ、必要に応じて、特定の事項を取り上げて第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行うことにより、指導の効果を高めるよう工夫すること。このような指導を行う場合には、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して、資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること（p.162）。

短時間学習を設定する上で、当該指導のねらいやそれを関連付けて指導を行う事項との関係を明確にすること、および単元など内容や時間のまとまりを見通して指導することの必要性を示しています。また、新学習指導要領の解説 外国語活動・外国語編の第2章 3の(1)には以下の記述があります。

言語習得の特性から、基本的な語句や表現などは、場面や活動などを替えながら、繰り返し学習させることで定着を図ることが期待されることから、各学校においては、児童や学校・地域の実態を踏まえ、朝の時間、昼休み前後の時間、放課後の時間などを活用した、10分から15分の短時間学習の実施、45分と15分を組み合わせた60分授業の実施、さらには長期休業期間の調整や土曜日を活用した授業の実施等により、教育課程内の外国語科の授業時数を確保するなど、「時間」という資源をいかに活用するかという視点で指導計画を見直し、カリキュラム・マネジメントにより計画的・組織的に教育活動の質の向上を図っていくことが求められる(p.124)。

この記述に続いて、10分から15分の短時間学習や45分と15分を組み合わせた60分授業の設定に当たっての留意点が、以下のように示されています。

- ・外国語科の特質を踏まえた検討を行うこと
 - ・単元や題材といった内容や時間のまとまりの中に適切に位置付けることにより、バランスの取れた資質・能力の育成に努めること
 - ・授業のねらいを明確にして実施すること
 - ・教科書や、教科書と関連付けた教材を開発するなど、適切な教材を用いること
- さらに、以下のように続きます。

具体的な学習活動の例としては、短時間(10分から15分)であれば、場面設定をした上で、必要な語句や基本的な表現を繰り返し聞いたり話したりする活動や、文字を読んだり書いたりする活動など、長時間(45分+15分の60分授業)であれば、単元の最後の時間に、意味のある場面や状況を設定し、深まりのある言語活動を行うなどが考えられるが、まとまりのある学習(45分授業)との関係性を明確にした一定の効果が得られる活動を各学校の創意工夫により設定することが重要である(p.125)。

つまり、短時間学習を設定することで、児童が外国語にくり返し触れる回数が増えるというメリットだけを考えるのではなく、15分などの短時間学習と45分のまとまりのある学習との関連を明確にすることが大切だということです。それらの関連なしに、単に映像資料を視聴させたり、語彙や表現をくり返し練習させたり、文字の書き取りをさせたりするのは避けなければなりません。

3. Junior Sunshine における短時間学習(モジュール授業)への活かし方

Junior Sunshine における短時間学習(モジュール授業)への活かし方について、5年生 Lesson 2(全6時間)を例に紹介します。以下は、45分授業を6回行う場合の単元計画です。

時	目標(◆)と主な活動(【 】, ○)【 〇 】=紙面化されている活動	◎評価の観点
1	<p>◆クラスの誕生日ポスターを作るという単元の目標をつかみ、月名の言い方を知る。</p> <p>【 Let's Listen 1 】 ・和矢とハンナの会話を聞いて、話題をつかむ。</p> <p>○日本の行事の絵について話し合い、月名や季節を表す単語を発音する。</p> <p>【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13</p> <p>【 Let's Play 1 】 ①キーワード・ゲーム ②ミッシング・ゲーム p. 13</p>	<p>◎まとまりのある話を聞いて、おおよその内容がわかっている。〈行動観察〉</p> <p>◎月名を表す単語を聞いて理解している。〈行動観察〉</p>
2	<p>◆月名を聞いたり言ったりするとともに、日にちの言い方を知る。</p> <p>【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13</p> <p>【 Let's Play 2 】 何月のカレンダーかを言う。 p. 14</p> <p>【 Let's Play 3 】 月名カードならべをする。 p. 14</p> <p>【 Let's Play 4 】 p. 14 ①日にちの言い方に慣れる。 ②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。 (ポインティング・ゲーム)</p>	<p>◎月名を聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉</p> <p>◎日にちを表す単語を聞いて理解している。〈行動観察〉</p>
3	<p>◆月名や日にちを聞いたり言ったりするとともに、好きな季節を伝え合う。</p> <p>【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13</p> <p>【 Let's Play 4 】 p. 14 ②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。 (ポインティング・ゲーム)</p>	<p>◎月名や日にちを聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉</p> <p>◎好きな季節を伝え合っている。〈行動観察〉</p>

時	目標 (◆) と主な活動 ([], ○) [] = 紙面化されている活動	◎評価の観点
(3)	【 Let's Listen 2 】 p. 15 ①英語を聞いて、日づけを書く。 ②日づけに合う絵を線で結ぶ。 【 Let's Watch and Think 】 p. 15 ・オーストラリアの写真(または動画)を見て、気づいたことを話し合う。 【 Let's Play 5 】 好きな季節を伝え合う。 p. 15	
4	◆月名や日にちを聞いたり言ったりするとともに、誕生日をたずねたり答えたりする表現を知る。	
	【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13 【 Let's Play 4 】 p. 14 ②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。 (ポインティング・ゲーム) 【 Let's Listen 3 】 p. 16 ・4人の誕生日を聞いて、線で結ぶ。 【 Let's Play 6 】 p. 16 ・有名人になりきった指導者に、誕生日をたずねる。	◎月名や日にちを聞いたり言ったりしている。〈行動観察〉 ◎誕生日をたずねたり答えたりする表現を聞いて理解している。〈行動観察〉
5	◆クラスの誕生日ポスターを完成させる。	
	【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13 【 Let's Play 4 】 p. 14 ②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。 (ポインティング・ゲーム) 【 Let's Try 】 p. 17 ①クラスの友だちの誕生日をたずねて、表に書く。 ②クラスの誕生日ポスターを作る。	◎誕生日をたずね合っている。〈行動観察〉 ◎インタビューで得た誕生日の情報を発表している。〈行動観察〉
6	◆活字体の大文字を認識して書く。	
	【 Let's Sing 】 ABC Song p. 84 【 1 】 p. 84 ①見たことがあるかを話し合う。 ②身の回りがある大文字の英語をさがして書く。	◎活字体の大文字を正確に書いている。〈紙面チェック〉

時	目標 (◆) と主な活動 ([], ○) [] = 紙面化されている活動	◎評価の観点
(6)	【 2 】 p. 84, 85 ①直線だけで書ける大文字をさがして書く。 ②曲線と直線で書ける大文字をさがして書く。 ③ひと筆で書ける大文字をさがして書く。 【 3 】 p. 85 ・文字の形のちがいに気をつけて大文字を書く。	

次に、45分授業と15分の短時間学習(モジュール授業)を組み合わせる場合の例を紹介します。45分授業の後、15分の短時間学習(モジュール授業)を3回行うことをくり返す例です。

第1時 ◆クラスの誕生日ポスターを作るという単元の目標をつかみ、月名の言い方を知る。(45分)

短時間学習①(15分) ◆月名を聞いたり言ったりする。

【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13

【 Let's Play 2 】 何月のカレンダーかを言う。 p. 14

短時間学習②(15分) ◆月名を聞いたり言ったりする。

【 Let's Play 3 】 月名カードならべをする。 p. 14

短時間学習③(15分) ◆日にちの言い方を知る。

【 Let's Play 4 】 p. 14

①日にちの言い方に慣れる。

②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。(ポインティング・ゲーム)

第2時 ◆月名や日にちを聞いたり言ったりするとともに、好きな季節を伝え合う。(45分)

短時間学習④(15分) ◆月名や日にちを聞いたり言ったりする。

【 Let's Sing 】 Twelve Months p. 13

【 Let's Play 4 】 p. 14

②聞こえた英語を言いながら、日にちを指さす。(ポインティング・ゲーム)

短時間学習⑤(15分) ◆誕生日をたずねたり答えたりする表現を知る。

【 Let's Listen 3 】 p. 16

・ 4 人の誕生日を聞いて、線で結ぶ。

短時間学習⑥ (15分) ◆誕生日をたずねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。

【 Let's Play 6 】 p. 16

・ 有名人になりきった指導者に、誕生日をたずねる。

第 3 時 ◆クラスの誕生日ポスターを完成させる。(45分)

短時間学習⑦ ◆活字体の大文字を認識して書く。

【 Let's Sing 】 ABC Song p. 84

【 1 】 p. 84

- ①見たことがあるかを話し合う。
- ②身の回りにある大文字の英語をさがして書く。

短時間学習⑧ ◆活字体の大文字を書く。

【 2 】 p. 84, 85

- ①直線だけで書ける大文字をさがして書く。
- ②曲線と直線で書ける大文字をさがして書く。
- ③ひと筆で書ける大文字をさがして書く。

短時間学習⑨ ◆活字体の大文字を書く。

【 3 】 p. 85

・ 文字の形のちがいに気をつけて大文字を書く。

短時間学習 (モジュール授業) の場合、あいさつやウォーム・アップ、めあての提示などに時間をかけすぎると、学習時間が短くなってしまいうというデメリットがあるので注意が必要です。また、学校行事などの理由で安易に中止にすることは避けなければなりません。

—引用, 参考文献

- 文部科学省 (2017). 『小学校外国語活動・外国語 研修ガイドブック』
- 文部科学省 (2018). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示)』
- 文部科学省 (2018). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 総則編』
- 文部科学省 (2018). 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説 外国語活動・外国語編』

Junior Sunshine の特徴や工夫を Q&A 形式でご紹介します。

Q1 題材の配列で気をつけたところはどこですか。

A 児童の生活カレンダーに合わせた題材の配列
アダチ徹子 (宮崎大学) p.10

Q2 単元の構成はどのようなつくりになっていますか。

A ゴールイメージをもって学習をはじめ、
まとめの活動で達成感をもつことができる構成
アダチ徹子 (宮崎大学) p.11

Q3 中学年の外国語活動と高学年の教科との違いを教えてください。

A 「読むこと」「書くこと」の導入
—「慣れ親しむ」から「技能を身につける」教科へ—
佐藤広幸 (成田市立津富浦小学校) p.12

Q4 小中連携ではどのような配慮をしていますか。

A 小中英語リレーの確かなバトンパス
—つながるインプットとなめらかな接続—
卯城祐司 (筑波大学) p.13

Q5 英語の授業で教科横断的な活動をするにはどうしたらよいでしょうか。

A 先生方のアイデア次第!
—小学校教員の得意分野—
櫻村雅子 (柏市立柏第八小学校) p.14

Q6 なぜ「読み・書き」を独立させて載せているのですか。「読み・書き」を指導する上で気をつけることを教えてください。

A 系統的な学習がねらいです
—題材とは独立させて楽しくゆっくり学習を—
中島 亨 (福岡教育大学) p.15

Q7 異文化理解の活動はどのように扱われていますか。

A 外国語の背景にある文化を理解
—中学年は相手に配慮・高学年は他者に配慮—
佐藤広幸 (成田市立津富浦小学校) p.16

Q1 題材の配列で気がつけたところはどこですか。

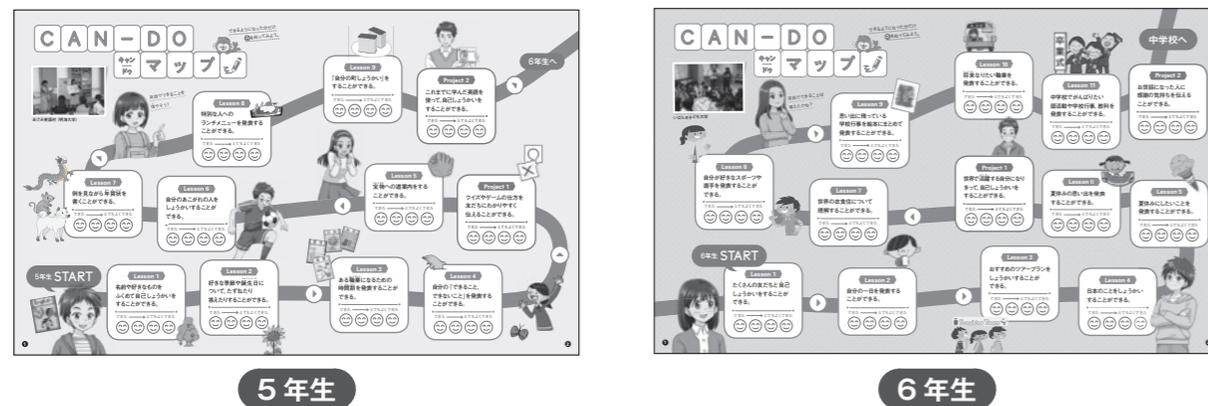
A 児童の生活カレンダーに合わせた題材の配列

アダチ徹子（宮崎大学）

5年生は、新しいクラスの友だちと一緒に自己紹介をし合う単元や、自分の好きなものを伝え合ったりする単元から始まります。また、年末年始の時期には世界のお正月の様子や十二支についての物語を知り、英語を使って年賀状を作る活動を行います。そして6年生の夏には、夏の星空や七夕の物語に思いをはせたり、夏休みにしたいことを短冊に書いたりします。さらに、9月にはどんな夏休みを過ごしたかを発表し合います。卒業が近づくとつれて、小学校での思い出をまとめたり、将来の夢を考えたり、中学生生活を想像したり、といった児童の生活に密着した題材の単元が続きます。

また、児童の表現する世界が少しずつ広がっていくような配列になるように配慮もしています。5年生の間は、自分や友だちのことについてやり取りをする単元が多いものの、次第に「私とあなた」以外の人について表現することが増えていきます。あこがれの人などを紹介する単元は、自分にとってロールモデルとなる人物や、自分のまわりのがんばっている人のよさを見出す機会となるでしょう。また、外国のランチを知るなど、世界に目を向ける一方で、自分の住んでいる地域のよさを紹介したり（5年生）、日本のことを紹介したり（6年生）する機会も設定しています。6年生では世界への視野をさらに広げることができるよう、多くの単元に国際理解の観点を盛り込んだ活動を取り入れています。一方で、自分の将来や、お世話になった人への感謝など、まわりの人との関わりを見つめ直して小学校での学習を終えるように配列を工夫しました。

▼ 題材の配列と1年間の流れ



Q2 単元の構成はどのようなつくりになっていますか。

A ゴールイメージをもって学習をはじめ、まとめの活動で達成感をもつことができる構成

アダチ徹子（宮崎大学）

まず、単元名を見れば、その単元で児童が使う代表的な英語表現や、その表現を使って何をするのがわかるようになっています。さらに単元全体を見通し、単元の終わりに行うコミュニケーション活動について知り、そのゴールに向かって、できるようになるための活動を積み上げていきます。少しずつ必要な表現を知り、やり取りを経験することで、児童は最終目標である活動をスムーズに行うことができるでしょう。「英語で伝えることができた」「友だちの発表がわかった」というような、「できた感」を得ることで、自分のコミュニケーション力について肯定的なイメージを持ったり、次の単元への学習意欲を得ることができるよう心がけました。

たとえば、5年生のLesson 8では、まず単元名「What would you like? —ランチメニューを考えよう—」から「ランチメニューを考えて紹介するのだろう」と、最終の活動を予想することができます。また、見開きの明るく楽しい雰囲気のレストランのイラストから、ランチメニューを考えてみたい、いろいろな食べ物の英語での言い方を知りたいなどという気持ちが膨らんでいくことでしょう。最終の活動に必要な表現は、Let's Listen, Let's Play, Let's Chantなどで、少しずつ慣れていきます。給食の献立から栄養を考える活動もあり、家庭科などで学んだ知識が生きることでしょう。また、外国のランチや食べ物について知ったり、日本と比較して考えたりすることもできます。

以上のように、さまざまな学習を積んで、最終的に「特別な人」のためにランチメニューを考えます。家族や友だちなど、自分にとっての「特別な人」のことを思って考えるランチメニューは、児童の気持ちがこもったものとなるでしょうし、英語でクラスの友だちや先生に伝えることができたという自信を得て、「もっと英語を使ってみたい」という意欲が増すことを期待しています。

▼ 5年生 Lesson 8 より



Q3 中学年の外国語活動と高学年の教科との違いを教えてください。

A 「読むこと」「書くこと」の導入 —「慣れ親しむ」から「技能を身につける」教科へ—

佐藤広幸（成田市立津富浦小学校）

新学習指導要領では中学年で「聞くこと」「話すこと（やり取り・発表）」の言語活動を通して外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しみ、コミュニケーションを図る素地を育成することを目標としています。高学年ではさらに「読むこと」「書くこと」に慣れ親しむことがつけ加えられ、「聞くこと」「読むこと」「話すこと（やり取り・発表）」「書くこと」の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎を育成するようになります。つまり、中学年では外国語の音声や基本的な表現に十分慣れ親しませることが重要ですが、高学年ではさらに推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすることもできるようにしなければなりません。

Junior Sunshine では、これまでの外国語活動で慣れ親しんできた活動も含んでいますが、高学年では文字や読むこと、そして書くことへの興味づけを工夫したり、他教科と連携させたりするなどして学習意欲の向上と確実な基礎力の育成を図っています。

5年生では、名刺づくり、プロフィールカードづくり、年賀状づくりなどがあり、児童に必要な感のある「読む力・書く力」を身につけることができるようになっています。

また6年生では、夏休みの思い出カードづくり、思い出学校行事シートづくり、将来の夢発表シートづくりなど、児童の実生活に即した「読む力・書く力」を身につけることができるようになっています。

さらに「文字に慣れよう」のページを設け、「聞く力・書く力・読む力」の基礎的な技能が確実に身につくように、各単元で必ず1単位時間は「読む・書く」活動ができる構成になっています。

▼ 6年生 Lesson 8 より

1.では好きなスポーツを、2.では好きな国を選んで文を書こう。

1. 例 I like tennis and soccer.

I like

Q4 小中連携ではどのような配慮をしていますか。

A 小中英語リレーの確かなバトンパス —つながるインプットとなめらかな接続—

卯城祐司（筑波大学）

英語の小中連携では、リレーのように歩幅を合わせた、確かなバトンパスが求められます。一貫した体系的な指導と、スムーズでなめらかな接続です。

中学校に備えるためのインプット

第二言語習得では、「英語にふれ（インプット）」、「注意（気づき）」に向けた部分の意味や形式、機能がわかり（理解）」、それを「自分の英語体系（中間言語）の中に取り込み（インテイク）」、再構築（統合）」することによって、「自動的に瞬時に使える（アウトプット）」ようになると言われています。



インプットもアウトプットも、それらをつなげる練習もどれも大切ですが、小学校段階では、まず中学校に備えるためのインプットが大事です。インプットしたものしかアウトプットされないため、そのインプットの量と質がアウトプットの量と質を決めることになります。Junior Sunshine は、場面シラバスで構成され、意味のある生きたコミュニケーション場面で実際に使いながらインプットを高めています。

小中のつなぎ目を感じさせない接続

リレーではバトンパスを行うゾーンが20mから30mもあり、ここが肝となります。これは小学校英語から中学校英語への連携でも同じです。

Junior Sunshine では、6年生最後の単元で「中学校でがんばりたい部活動」を取り上げています。バレー部や剣道部などのポスターを見て、活動する場所や部活動を行う曜日、時間帯などの情報を読み取ります。小学校卒業を前にして、中学校生活にふれ、夢を膨らませながら中学校へとつなげています。

さらに、その上で、「中学校へつなげよう」のコーナーで、中学校でつまずきやすい「英語の語順」「時制（過去形）」「単数形・複数形」「外来語（和製英語）」の4つの項目を取り上げています。

小中連携に必要な内容を十分に取り上げて、スムーズに小中をつなぐ工夫をしています。

Q5

英語の授業で教科横断的な活動をするにはどうしたらよいでしょうか。

A

先生方のアイデア次第！
—小学校教員の得意分野—

榎村雅子 (柏市立柏第八小学校)

授業の指導案を見て、「この活動はみんなが楽しくやれそうだ」「この授業のねらいなら、別の活動に変えてもよさそうだ」などと、児童の反応を予想してシュミレーションするのはどの教科でもされていることと思います。英語も同じように、ねらいに応じて活動をアレンジしたり他教科と関連づけたりして、より児童がアクティブに学べるように工夫できたら素敵ですね。でもそれは小学校教員の得意分野ですよ！なぜなら教科を受け持つ中学校教員と違い、多くの小学校教員は全教科を教え、いつごろ何を学習するかを知っています。さらに学級担任となると、児童が興味を持っていることや得意なこともおおよそ理解していることでしょう。児童が喜びそうな活動を加えることや、「社会科が得意な〇〇君なら、英語が苦手でもこの活動は食いつくだろう」といった学級担任ならではの配慮もできます。

Junior Sunshine には他教科に関連がある単元やアクティビティが多く取り入れられており、教科のマークが明示されています。たとえば5年生の Lesson 8 で給食の食材を3色食品群に分ける活動では、家庭科の教科書や掛図などを利用して別メニューでも活用できます。また5年生の Lesson 9 では、Let's Play 1 で社会科に関連した名産品ポインティング・ゲームがあります。慣れてきたら、社会科資料集を活用して特産物ベスト3から都道府県を当てさせるなどの工夫もできます。6年生の Lesson 3 では国旗や絵カードから国名を調べる活動がありますが、たとえば男女のペアで1冊しか社会科資料集を渡さないなどの工夫をすると、必然的に協力して作業することになり、学級経営上の利点も生まれます。さらに、6年生の Lesson 5 では4年生で学習した理科の星座の内容が登場します。前に学習したことを違った角度から学ぶことは学びに深みを与えます。自己紹介や発表のスキルについては国語や総合的な学習の時間などの教科にも通じます。指導案通り行っても自然と他教科とつながる活動になりますが、先生方のアイデアのスパイスを加えてさらによりよい授業にしてください。

Q6

なぜ「読み・書き」を独立させて載せているのですか。「読み・書き」を指導する上で気をつけることを教えてください。

A

系統的な学習がねらいです
—題材とは独立させて楽しくゆっくり学習を—

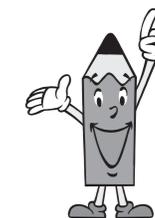
「読み・書き」は新学習指導要領のもとでは慣れ親しみが目標ですが、一方で音声で十分慣れ親しんだ語句や表現についてはある程度の理解や表現が「できるようになる」ように指導することも求められています。文字を読み書きできるようになるためには、ある程度の系統的な学習が必要です。Junior Sunshine では題材の内容に無理に関連させず、この系統的な学習を無理なく楽しく進められるようにするために独立させて設計しています。

たとえば、5年生では文字の形に焦点を当てていますが、見たことのある文字から始まって、大まかな文字の形(2階建て、1階建て、地下1階建て)と移行し、文字を構成する曲線や直線に気づかせる学習や線対称・点对称などを学習し、文字の具体的な形を身につけていきます。大文字・小文字の学習が終わると、次は大文字・小文字で形の違うものに焦点を当てて52文字のアルファベット文字をゆっくりと楽しく学習するように設計しています。

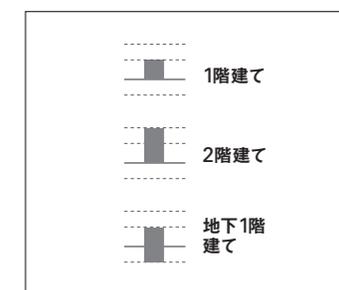
また Junior Sunshine では、文字の読み書きに加えて、音と文字の結びつきも無理なく学習できるように工夫しています。音と文字の結びつきの学習も系統的な指導が必要ですが、題材の内容と関連させようとすると無理が生じます。順番に少しずつ学習を進められるように、独立して指導できるように工夫しています。単語の最初の音の認識からライミング(単語の母音から最後の部分)までの認識も取り扱います。このような活動は「予測して」単語を読むことにもつながります。

さらに、独立した短時間学習(モジュール授業)にも対応できるようにしています。1つの読み書きのレッスンは3つの活動で構成されますが、1つの活動を15分のモジュールで扱うことが可能です。

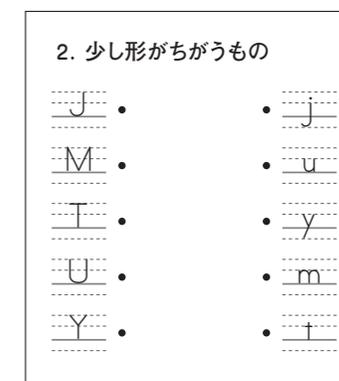
中島 亨 (福岡教育大学)



▼ 5年生 Lesson 4 より



▼ 5年生 Lesson 6 より



▼ 6年生 Lesson 5 より



Q7

異文化理解の活動はどのように扱われていますか。

A

外国語の背景にある文化を理解

— 中学年は相手に配慮・高学年は他者に配慮 —

佐藤広幸（成田市立津富浦小学校）

新学習指導要領 第10節の外国語の目標では、「(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。」と異文化理解についてふれています。それぞれの言語を創造し継承してきた文化や、その言語を母語とする人々の考え方を学ぶことにより、積極的に人や社会と関わり、他者と共感するなど互いの存在についての理解を深め、尊重しようとする態度を育てることが求められています。

具体的には、中学年の外国語活動では「相手に配慮しながら」であるのに対し、高学年の外国語では「他者に配慮しながら」という違いがあります。「聞くこと」「話すこと」を中心としている中学年では、目の前にいる相手を対象となるのに対し、高学年では「読むこと」「書くこと」も加わり、コミュニケーションを図る対象が必ずしも目の前の「相手」だけではないという理由があるからです。

このような異文化理解への対応として5年生では、さまざまな国のあいさつや食べ物について知ったり、世界の小学校の授業の様子やお正月の様子について学んだりすることができます。また6年生では、日本と世界の時差を知ったり、世界の衣食住について学んだりするなど、外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者を尊重する態度を育てることができます。

▼ 6年生 Lesson 7 より



Let's Play 2

次の1.～4.はどの国の住居かを予想して、地図のA～Dから選ぼう。 社

1.



()

2.



()

3.



()

4.



()



開隆堂出版株式会社

<http://www.kairyudo.co.jp/>

2020 教 内容解説資料

本社	〒 113-8608	東京都文京区向丘 1-13-1	TEL 03-5684-6111
北海道支社	〒 060-0061	北海道札幌市中央区南一条西 6-11	札幌北辰ビル 8 階 TEL 011-231-0403
東北支社	〒 983-0852	宮城県仙台市宮城野区榴岡 4-3-10	仙台 TB ビル 4 階 TEL 022-742-1213
名古屋支社	〒 464-0802	愛知県名古屋市千種区星が丘元町 14-4	星ヶ丘プラザビル 6 階 TEL 052-789-1741
大阪支社	〒 550-0013	大阪府大阪市西区新町 2-10-16	TEL 06-6531-5782
九州支社	〒 810-0075	福岡県福岡市中央区港 2-1-5	FYC ビル 3 階 TEL 092-733-0174